

3 大規模酪農経営 5 農場における持続的な牛白血病対策

上北地域県民局地域農林水産部十和田家畜保健衛生所

○佐藤馨 角田公子

近年、全国的に地方病性牛白血病（EBL）の発生が急増しており管内でも増加傾向。当所では平成 27 年度にモデル農家として A 酪農場で EBL 対策を実施。平成 28 年度には A 酪農場系列の 4 農場を加えた対策を開始。パステライザー導入による初乳の低温殺菌、牛舎開放部への防虫ネットの設置、抗体陽性牛の早期更新、搾乳時の作業動線の変更等の対策と年 2 回の抗体検査を実施。その結果、対策開始時に 5%～35%であった抗体陽性率が、平成 29 年度 2 回目の検査時には 0%～8.5%に低下。当初、農場管理者は難しい対策はできないと敬遠したが、農場でできる対策をピックアップし、管理獣医師と県畜産協会、家畜保健衛生所が連携して、農場を頻回に巡回、現場で勉強会も行い、検証と対策を繰り返して実施。巡回を重ねる過程で農場管理者も意欲的になり、徐々に対策もステップアップし、自主的な対策も実施。牛白血病対策を啓発していく上では農場が正しい知識を持って対策を理解することが重要。実行可能な対策から始め、関係機関が連携し農場と検討を重ね、農場の意識付けが効果的。また陽転頭数を抑えているという実感を積み上げ、農場管理者のモチベーションを維持することが必要。今回のモデル農場を踏まえ、今後、関係者と一層の連携を図り、牛白血病対策を推進。研修会や青空教室等生産者と接する機会を活用し対策を行う農場を増やすと共に農場が持続的に取り組めるよう指導を継続していく所存。